

2011 年度報告書（研究員）

氏 名	吉野 裕介
職 位	グローバル COE 研究員（短時間勤務）
<p>研究概要</p> <p>1.本計画の概要 東アジア諸国, 特に中国, 台湾, 韓国, 日本において, 新自由主義が受容された過程を比較検討し, 東アジアにおける公共圏の思想的基盤を解明するとともに, 本プログラムの課題『東アジアにおける親密圏と公共圏の再構築』に貢献する。</p> <p>具体的には, 新自由主義思想が東アジア諸国へ伝播した過程を, ハイエク思想の受容と展開から論じる。新自由主義は, 主に市場の役割を拡大しようとする経済思想である。その流入は, 政府の役割および公共圏／公共性の範囲を規定することでもある。ここで新自由主義の普及について検討することで, 東アジアにおける公共圏の役割を再考する基礎とする。</p> <p>2.研究の方法と実際 本企画は, 次の三段階で実行予定であった。</p> <p>1)スタンフォード大学フーバー研究所における現地調査の実施 2)アジア諸国の研究者を招聘し研究会の開催 3)学会および学内成果報告会での成果の公表</p> <p>以下に計画と遂行を記す。1)「京都エラスムス計画」にて在外研究を行い, ハイエクとアジア諸国の研究者との往復書簡を調査した。できあがった論考は英文として完成させ, 現在国際雑誌に投稿準備中である。2)京都大学若手スタートアップ研究費を獲得し, その予算で台湾に出張し, 台湾中央研究院欧美研究所でネットワークを作る活動と資料調査を行った。ここでの研究は, 東アジアでのハイエク受容に関わるものであり, 今後も継続される。3)経済学史学会, 経済思想研究会, 『統治を創造する』シンポジウムなどに登壇し報告を行うと共に論考を執筆した。</p> <p>業績リスト（著書、論文、報告、その他に分けて主要なものを記入する）</p> <p>書籍（共著）吉野裕介「第4章 ハイエクの思想から読み解くオープンガバメント—情報化社会における市場の機能と政府の役割」西田亮介・塚越健司編著『「統治」（ガバナンス）を創造する—新しい公共・オープンガバメント・リーク社会の衝撃』, pp. 147-189, 春秋社, 2011年12月。</p> <p>論文（単著）吉野裕介「ハイエク『隷属への道』再考—F.マハループの貢献とアメリカにおける受容」, 第75回経済学史学会大会報告集, 経済学史学会, pp.154-159, 2011年11月→改稿したものを学会誌『経済学史研究』へ投稿済み</p> <p>学会報告 吉野裕介「ハイエク『隷属への道』再考—F.マハループの貢献とアメリカにおける受容」, 第75回経済学史学会大会報告集, 経済学史学会, pp.154-159, 2011年11月。</p>	

